

# Men's PREPPY

Men's Hair & Beauty Trend Magazine for Professionals

7

2020 JULY



男のヘア&ビューティをつくるプロフェッショナルマガジン

COVER & INTERVIEW

藤原竜也 竹内涼真



新型コロナウイルス対策 今、理美容師にできること。  
特別企画 私の免疫力アップ方法。

特集

メンズ  
カツトの  
基本を  
もう一度。

メンズカットは3つの図形で考えよう！  
『TONI&GUY』流メンズカット。  
理容と美容の技術で作る、ハイブリッドヘア。  
達人達のカットプロセスを比べたい。

| Cosmo Smith |

# YS CONVEX 7.0

Items:

最高級の鋼「日立安来鋼 ATS 314」を使用し、職人の手によってシザーが作られる。柳の葉のような曲線で、2枚の刃がプロペラのように重なっているのでキレイに切ることができる。



84mm

62.5g

Detail:

最終段階は、1本1本職人の手作業。そのため、繊細な切れ味になる。

192mm

**ス** ーッと指で刃先をなで、シャキシャキとシザーの音を聴く。その仕草と表情から、オーナーの道具への愛情が伝わってくる。「ハサミに要求するのは繊細な切れ味ですね」

やさしく、ゆっくりとそう話す『銀座マツナガ』のオーナー・松永さんは、現在79歳。今でも毎日お店に立ち、1カ月に170人のお客さまを担当する。「切れ味がいいハサミの条件は、抵抗が少ないこと、開閉だけの力で切れること、いつまでも切れることです」

10年以上前から愛用する『コスモ・スミス』のシザーは、1000人のお客さまに渡しても切れ味が落ちないという代物。その切れ味もさることながら、お客さまから「その音がいいんだよね」と開閉時の音を褒められることもしばしば。手に持って、耳で聴いて、指でなでて、感触としてそのよさを噛みしめられるシザー。そんなシザーは、世の中にそう多くはないだろう。

最後に、音の違いについて尋ねてみると「なんとなく、この音がいいんですね」と答えてくれた。

なんとなく—それは、世間一般的な意味合いではなく、技術と経験に基づく言葉。その感覚がわかるまで、どれだけ多くの時間と努力、愛情が必要なのだろう。

今日もそんなシザーの音が、日常の音としてさりげなく、でもしっかりと店中に響き渡る。シャキシャキと響き渡る。その響きを聴き分けることができたとき、きっと本物の匠になれるのかもしれない。

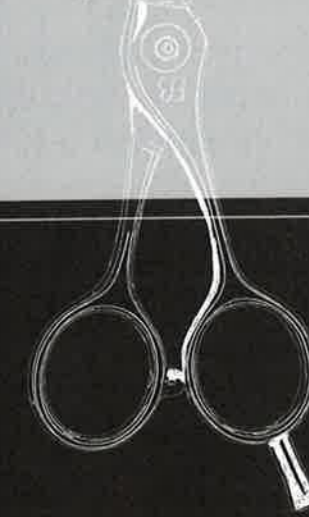
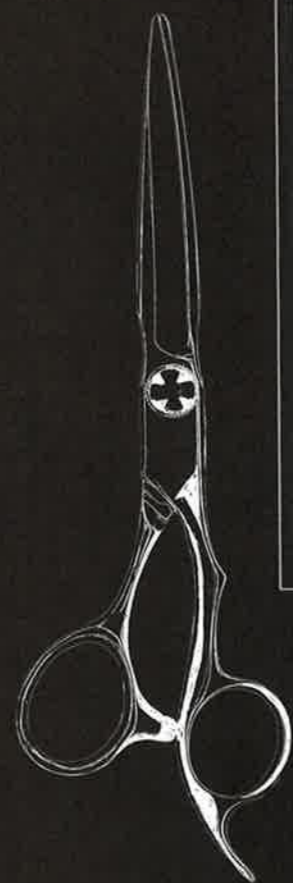
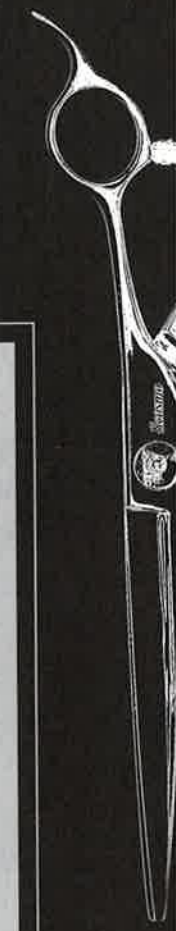
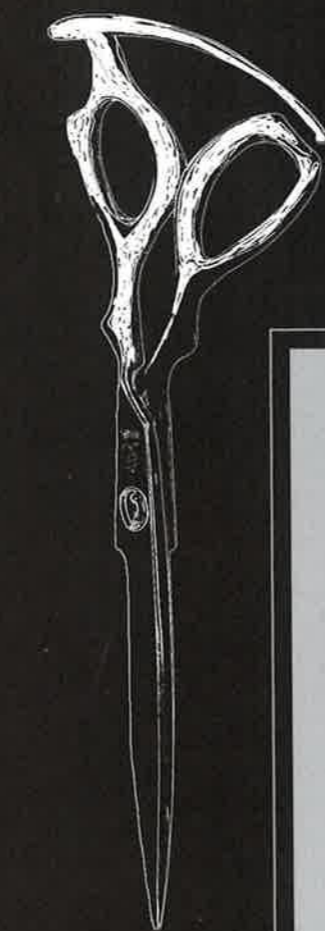


Owner: 銀座マツナガ / 松永巳喜男

まつながみきお、『銀座マツナガ』代表。'41年2月10日生まれ。「1000回開閉して1回切れなかっただけでも、下手だと思われる。切れ味というのはそういう世界ですね」



セニング2本(手前)と使用頻度が高い7インチシザー(右から2番目)、7.25インチシザー(右)は、髪質が硬い人に使う。



# 5

Basics of Men's cut

道具を見れば、人が見える。  
プロフェッショナルの  
ハサミが見たい。

理美容師にとって、触れている時間が最も長い道具。  
ここでは巨匠たちの愛用品を紹介しつつ、  
その裏にある人それぞれのストーリーを紹介。  
ハサミ、そしてカットとは？ 道具から理美容師たちの哲学に迫る。

photo: Kazuki Sano [P.51], Atsushi Yamahira [P.52, 56],  
Tomoyuki Sugai [P.53, 54], Jun Arata [P.55]  
text: Men's PREPPY